【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（小学校用）

都道府県名	富山県

Ⅰ　学校の概要（平成１５年４月現在）

学校名	氷見市立宮田小学校								
学　年	１年	２年	３年	４年	５年	６年	特殊学級	計	教員数
学級数	２	１	２	１	２	１	１	１０	
児童数	４６	４０	４４	３９	５６	３５	３	２６３	１５

Ⅱ　研究の概要

１．研究主題

基礎・基本を定着させる個に応じた学習指導の工夫
―― 確かな学力の向上を目指した算数科指導を通して ――

２．研究内容と方法

(1)　実施学年・教科

・１年，２年，３年，４年，５年，６年（算数科）
児童の理解の程度に差が出やすく、少人数指導による学力向上が期待できる教科であるため。少人数指導は３学年以上で実施。

(2)　年次ごとの計画

平成15年度

○　テーマ
基礎・基本を定着させる個に応じた学習指導の工夫
―― 確かな学力の向上を目指した算数科指導を通して ――

○　研究の見通し（仮説）
1　一人一人が意欲をもって学習できる教材の開発や学習過程の工夫により、課題意識をもちながら主体的に学習に取り組むことができる。
2　個に応じた指導体制や指導方法を工夫することにより、学ぶ楽しさを味わいながら追究意欲を高めていくことができる。
3　多様な評価方法を工夫し指導に生かすことにより、ねばり強く学習を続けることができる。

○　研究の内容・方法
1　発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材開発の工夫
(1)　興味を引き出す教材や教具の開発
(2)　習熟度に応じた教材の開発
(3)　基礎・基本の定着を図る教材の開発
2　個に応じた指導のための指導方法・体制の工夫
(1)　少人数指導やティームティーチングの効果的な指導方法
(2)　一人一人のよさが発揮できる学習過程
(3)　朝の時間や裁量の時間の有効な活用方法
3　評価を生かした指導の工夫
(1)　評価規準の作成と活用
(2)　授業や学習集団形成に生かすための評価
(3)　一人一人のよさを多面的にとらえる評価方法

平成16年度

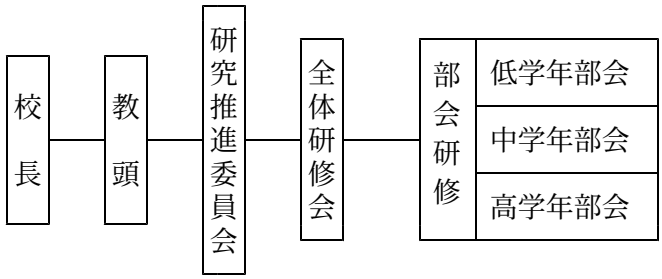
○　テーマ
個に応じた学習指導の工夫
―― 確かな学力の向上を目指した算数科指導を通して ――

○　研究の見通し（仮説）
1　一人一人が目当てをもち意欲的に学習できる教材の開発や学習過程の工夫をすることにより、自ら課題を見つけ主体的に学習に取り組むことができる。
2　個に応じた指導方法や指導体制を工夫することにより、学ぶ楽しさを味わいながら追究意欲を持続することができる。
3　多様な評価方法を工夫し指導に生かすことにより、一人一人がよさを発揮し、ねばり強く学習を続けることができる。

○　研究の内容・方法
1　発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材開発の工夫
(1)　算数的活動を大切にした教材・教具の開発
(2)　習熟度に応じた教材の開発
(3)　基礎・基本の定着を図る教材の開発
2　個に応じた指導のための指導方法・体制の工夫
(1)　少人数指導やティームティーチングの効果的な指導方法

(2)　多様な思考を生かす学習過程
(3)　基礎・基本をしっかり身に付ける朝の時間・発展的な学習に取り組む裁量の時間
(4)　家庭学習の有効な活用方法
3　評価を生かした指導の工夫
(1)　一人一人のよさを多面的にとらえる評価方法
(2)　個人記録の作成と活用
(3)　指導に生かす評価規準の見直しと活用

(3)　研究推進体制



・　研究推進委員会では、研究が円滑に進められるように研究計画を立案する。
・　全体研修会では、研究内容や方法などについて共通理解を図り、授業記録を基に子供たちの具体の姿で話し合い、教師の支援の妥当性について分析する。
・　部会研修では、日々の実践授業を通して授業仮説の明確化を図る。

Ⅲ　平成１５年度の研究の成果及び今後の課題

1．研究の成果

〈仮説１〉　課題意識をもち、主体的な学習を進めるための単元構想の工夫

・　３年「かけ算」の導入で、スーパーマーケットへ行き、社会科と結びつけた買い物をしたり、５年「上手にお金を使うには」で、買い物ごっこを取り入れたりした。具体的・体験的な活動を取り入れたことで、楽しみながら学習をする中から、算数を生活に生かそうとする態度を育てることができた。
・　２年「かけ算」では、生活の中から「何のかたまりが何個」というかけ算の問題場面を見つけたり、自分で問題を作ったり解いたりする活動を取り入れた。４年「わり算」では、「わり算名人になろう」という投げかけで、生活の中からわり算の問題を作り学習を進めた。自分で問題を作ったり友達と解き合ったりしたことで、生活の中からかけ算やわり算の場面を見つけ、進んで問題解決をしようとする態度が身に付いた。

〈仮説２〉　個に応じた学習を行うための学習形態の工夫

・　３年「かけ算」の単元の導入では各学級でティームティーチングを行い、習熟を図る場面においては、３つのコースに分かれて習熟度別コース学習を行った。ティームティーチングでは２人の教師が個々の子供の実態を細かく把握し、個に応じた指導をすることができた。習熟度別学習の「じっくりコース」では、具体的な操作活動を取り入れ、ていねいに学習を進めた。「わくわくコース」では、既習学習を振り返りながら友達の考えを聞き合って学習を進めた。「チャレンジコース」では、自分の考えを出し合い、互いのよさを認め合いながら学習を広め深めていくことができた。これらのことから、考えを出し合う場面では一斉指導や等質均等割指導が有効で、習熟を図る場面では習熟度別少人数指導が有効であると言える。
・　習熟度別少人数学習では、ほとんどの子供が自分に合った学習ができたと満足していた。少人数で学習することにより、ふだんはあまり発表しない子供が発表し、個別指導の充実を図ることができた。

〈仮説３〉　評価を生かした指導の工夫

・　毎時間、振り返りカードを書くことによって１時間の学習の取り組みを振り返った。シールを使った評価や学習の満足度を顔の表情にして書き込む評価、言葉による評価など学年の実態に合わせたカードを工夫することにより、自分のがんばりに気づいたり、次時への目当てをもったりすることができた。また、教師が一人一人の学習の様子をとらえることができ、評価しコメントを書き入れることで、子供たちは自信をもって次の学習に臨むことができた。
・　毎時間の評価規準に基づいた評価項目を作成し、一人一人の到達度をチェックした。これを担任と少人数指導教師が情報交換することによって、一人一人の実態を知らせ合うことができ、個に応じた指導に生かすことができた。単元の途中で子供

がコース変更するときも、これを基に教師間で話し合い、迅速に対応することができた。

2．今後の課題

〈仮説１〉

・　子供の興味・関心を引きつけるような教材の工夫は大切であるが、ともすれば教材のおもしろさに心が奪われがちになり、本当にねらいが達成されたとは必ずしも言えない。子供の実態をより深くつかみ、子供が主体的に取り組むことができる単元構想を工夫していく必要がある。

・　主体的な学習を進めるためには、一人一人がもっている考えや問題意識を的確に把握し、学年に応じた基礎・基本を整理し、子供の思考を大切にした柔軟な学習過程を仕組むためのより一層の教材研究が必要である。

〈仮説２〉

・　習熟度別学習はどんな場合にも有効であるとは限らない。子供の実態や学年の発達段階を見極め、その都度適切な学習形態を工夫する必要がある。

・　習熟度別学習では、コースによって学習内容や進度に差が生じてくる。同じ時間内で学習が終えられるように、１時間ごとの評価規準を明確にするとともに、裁量の時間を有効に活用する必要がある。

〈仮説３〉

・　子供自身が１時間の授業で何が分かりどう変容したのかを的確にとらえ、次の学習に生かすことが大切である。そのためには、自己評価の仕方をより子供の実態に合わせたものになるようもっと工夫していかなければならない。

・　１時間ごとの評価項目では、できたかできなかったかを教師が評価することはできるが、一人一人のつまずきをとらえることはできない。個に対応したきめ細かな評価の仕方を考えていく必要がある。

・　関心・意欲・態度など、見えない学力をどのように評価していけばよいかさらに研究を進めていきたい。

Ⅳ　学力等把握のための学校としての取組

○　集団としての実態把握

・　県小教研学力調査や標準学力検査ＮＲＴの結果から、落ち込んでいる領域を分析し、指導の充実を図った。

・　年度末に再度、標準学力検査ＮＲＴを実施し、結果を比較・分析し、次年度の研究に生かした。

○　個の実態把握

・　１時間ごとの評価規準に即して、一人一人の到達度をチェックし、次時の指導や個に応じた指導に生かした。これを基に個人記録を作成し、その記録の積み重ねに努めた。

・　学習規律を確立していくために、個々の基本的生活習慣や家庭学習の様子をとらえ、個人記録に累積し、一人一人を奥深くとらえるように努めた。

Ⅴ　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

・　研究紀要を作成し、市内小中学校や県内フロンティアスクールなどに配布する。

・　学校のホームページに学力向上フロンティアのコーナーを設ける。

・　次年度、２学期に公開授業研究会を開催する予定。
　近隣の小中学校に本校の取り組みを紹介し、研究の成果を広めたり、協議会で先進校から新たな取り組みを聞いたりして、研究を深める。

◇　次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】　√１５年度からの新規校　　１４年度からの継続校

【学校規模】　６学級以下　√７～１２学級
１３～１８学級　１９～２４学級
２５学級以上

【指導体制】　√少人数指導　√Ｔ．Ｔによる指導
一部教科担任制　その他

【研究教科】　国語　社会　√算数　理科
生活　音楽　図画工作　家庭
体育　その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　√有　無